

## 令和元年度 第2回地域医療推進部会

1. 日 時 令和2年2月19日(水) 第3回帯広市健康生活支援審議会終了後  
19:40~20:15
2. 場 所 帯広市役所 10階 第2会議室
3. 出席委員 稲葉秀一部会長、大滝達哉副部会長、一柳伸吾委員、佐々木修一委員、  
住谷晋専門委員、横尾洋子専門委員、森茂樹専門委員、車谷香織専門委員  
(宇野雅樹委員 欠席)  
事務局：橋向参事、山中課長補佐、佐伯主任
4. 会議次第
  - (1) 前回会議の議事録(案)の確認
  - (2) 令和2年度健康推進課関係予算(案)について
  - (3) その他

### 5. 会議内容

#### ○事務局

みなさま、こんばんは。定刻となりましたので、ただ今から、令和元年度第2回地域医療推進部会を開会いたします。

本日は宇野委員から欠席のご連絡がありました。地域医療推進部会、委員9名中、8名のご出席をいただいております。出席人数が委員の過半数に達していますことから、本日の部会は成立しております。

それでは、これより議事の進行につきましては、稲葉部会長にお願いいたします。

#### ●部会長

それでは、会議に入らせていただきます。

最初に、前回会議の議事録の確認についてを議題といたします。この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いいたします。

#### 【質疑なし】

#### ●部会長

よろしいでしょうか。無いようですので議事録は了承されたものといたします。次に、「令和2年度健康推進課関係予算(案)について」を議題といたします。事務局から説明願います。

#### ○事務局

それでは令和2年度健康推進課関係予算(案)についてご説明させていただきます。資料1~5になります。予算の発表が一昨日でございますので、会議資料が当日配布になり申し訳ございません。

どうぞよろしくお願いたします。

まず資料1から順にご説明させていただきます。令和2年度の健康推進課関係予算(案)でございます。予算額と対前年度の増減額の推移を記載しております。まず、表の右側に令和2年度予算を記載しております。この中で職員給与費への振替分としてBと記載している欄がございます。こちらにつきましては来年度から地方公務員法・地方自治法の一部改正により、これまでの嘱託職員等のうち多くの職員が会計年度任用職員に移行しますことから、今まで担当課で予算措置しておりました、報酬等の予算が、職員給与費として職員課所管の予算に移行となります。その額が合計で3,149万円ございますので、前年度との比較のために、職員給与費を加味したCの欄を設けました。左側の事業区分と、右側の令和2年度の予算額のA欄をご覧いただきたいと思っております。

まず上から

保健衛生総務費が、3億1,394万2千円

このうち主なものでは、

保健衛生推進費 7,352万円、

食・運動改善推進費 86万8千円、

公衆浴場対策費 1,511万5千円、

看護師等養成機関確保対策費 8,041万円

帯広厚生病院運営費補助 2億90万円、

すこやかネット事業費 435万6千円となっております。

前年度と比較しての増減の主なものといたしましては、保健衛生推進費におきまして、令和元年度には日本農村医学会学術総会の開催地補助金として、100万円の支出がありましたが、令和2年度は開催地補助の該当がないことにより、減となっております。また帯広厚生病院運営費補助金は、3,080万円の増となっておりますが、こちらにつきましては、新病院建設による病床数の増加と、特別交付税単価の増によるものとなっております。

続きまして夜間急病診療費は、1億5,637万3千円となっております。内訳といたしましては、休日夜間急病センター管理運営費が、8,045万6千円で、234万8千円の増、在宅当番や二次救急医療などの救急医療対策費が7,591万7千円で、56万8千円の減となっております。休日夜間急病センター管理運営費が増になっている理由といたしましては、平成29年度から令和3年度の5か年契約になっている中で、医師の給料のベースアップ等におきまして、毎年委託料が増えることを見込んでいたためであります。救急医療対策費の額については、令和元年度は、5月の大型連休や祝日など例年より休日が多かったことにより、予算が増えておりましたので、これと比較すると減額となっているものです。

続きまして、予防費は、総額で、5億2,645万1千円となっております、

主なものといたしましては、

がん検診・健康診査費等 1億4,196万円、

予防接種費 3億1,112万2千円、

感染症予防費 6,969万4千円、

健康教育費 300万2千円、

などとなっております。

増減につきましては、がん検診・健康診査費が402万6千円増となっており、受診者の増を見込んでおります。予防接種費につきましては、令和2年10月から、ロタウイルスワクチンの定期接種化が行われることや、40歳～57歳の男性の風疹抗体価検査及び風疹予防接種予算等の増などにより、

2, 523万1千円の増となっております。感染症予防費につきましては、インフルエンザ予防接種や高齢者の肺炎球菌予防接種の増を見込み、687万5千円の増となっております。

次に、保健福祉センター費として、2, 489万2千円を計上しております。こちらは、「保健福祉センター」の管理運営に要する費用でございます。以上、総事業費は、A欄の歳出予算合計10億2, 165万8千円となります。

続けて説明させていただきます、資料2、「令和2年度 健康推進課関係事業の概要」をご覧ください。こちらは、ただいまご説明いたしました、資料1の内訳となります。

まず、左側の、保健衛生総務費は、3億1, 394万2千円で、医療体制の整備や医療の人材不足への対応のほか、公衆浴場対策、健康まつりや、健康づくりのボランティアの養成・育成など市民の保健予防の推進のための予算となっております。

中央の予防費は、5億2, 645万1千円で、胃がん、肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がんの5大がんの検診のほか、各種健康診査、予防接種や感染症予防、結核予防など、疾病の予防、早期発見、早期治療のための経費と、健康相談、健康教育、訪問指導の経費を計上しております。

健康教育費には、令和2年度の新たな取り組みといたしまして、後ほどご説明させていただきますが、「健康マイレージ事業」を計上しております。

右側の夜間急病診療費は1億5, 637万3千円で、休日や夜間の救急医療を確保するものでございます。二次救急医療につきましては、消防の広域化も踏まえ、当番病院を十勝医師会にも情報共有するなどの体制がとられているところですが、帯広市の二次救急当番病院について、管内町村住民の利用割合は約4割を占めている現状になっていることから、その体制維持のため、三次救急同様、十勝全体での支援体制が必要であると考えております。平成30年11月から、十勝総合振興局主催による19市町村の担当課長等及び6病院の事務長等を参集範囲として、「病院群輪番制による課題検討会」が開催され、これまでに5回の検討を重ねているところでございます。このうち昨年8月に開催した、第4回検討会では副市長村長が出席し、二次救急医療体制を担う病院の状況を共有し、各町村で政策検討を行うことを確認したところであります。引き続き、十勝総合振興局を始め関係機関と連携しながら、十勝全体で二次救急医療を支えていくため、取り組んでまいりたいと考えております。

次に、保健福祉センター費として、2, 489万2千円を計上しております。こちらは、「保健福祉センター」の管理運営に要する費用でございます。

続きまして、資料3をご覧くださいと思います。こちらは、健康マイレージ事業の説明資料でございます。18歳以上の市民を対象に、スマートフォンアプリを活用して、がん検診の受診や歩数計の活用による歩数量の増加など、健康にかかわる取り組みに対してポイントを付与し、特典が得られる事業となっております。令和2年9月からの開始を予定しております。企業にご協力いただき、特典として、飲食店でのメニューの一部割引や、スポーツ観戦チケット等をご提供いただくとともに、企業ぐるみでこの事業に参加していただくことで、従業員の健康増進や企業のイメージの向上にもつながるものと考えております。なお、こちらのアプリに登録する項目ですが、年代・性別・職業・運動習慣の有無などの項目となっておりますので、個人情報についての登録はありません。

また、検診の受診率向上のため、帯広市のホームページから検診の申し込みができるように検討を進めているところでございます。健康マイレージ事業のスマートフォンアプリに、帯広市の検診申し込みページへのリンクを貼り、アプリから誘導できるように検討しているところであります。なお、検診申し込みのシステムにつきましては、地方自治体が使用するインターネットからは切り離された独立回線となっているものです。

次に資料4をご覧くださいと思います、ロタウイルスワクチンの定期接種化についてでございます。腸からの水の吸収が阻害され、下痢症状を発症する「ロタウイルス胃腸炎」を予防するものでございます。令和2年10月から定期接種に追加となります。対象者は、令和2年8月生まれ以降の方となります。ワクチンの接種方法につきましては、ご覧のとおりでございます。

最後に、資料5をご覧くださいと思います、市外施設での予防接種にかかる助成についてでございます。これまで帯広市では、治療のため入院しているなど、やむを得ない事情により、帯広市内で接種できない方に限り、接種費用の助成を行ってまいりましたが、令和2年4月以降、里帰り出産等の理由により、市外の医療機関で予防接種をする場合の費用についても助成を行ってまいります。資料の説明は以上です。

●部会長

「令和2年度の健康推進課関係予算（案）」につきまして、ご意見ご質問があればお願いします。

● 委員

マイレージ事業の中の、健診（検診）の申込とあるのは、どの健診（検診）のことを指すのか。

○事務局

がん検診等の、市の検診の申し込みが対象です。

● 委員

資料2にある一連の検診、これらが申し込みやすくなるのか、またはスマートフォンアプリを使って検診を申し込めるのか。

○事務局

スマートフォンアプリからの直接の申し込みはできませんが、スマートフォンアプリにリンクを貼り、帯広市のホームページから、申し込み可能となります。電話による申し込みよりも、都合のいい時間帯に申し込んでいただくことにより、受診率の向上に繋げようとするものです。

○事務局

補足させていただきますと、今導入しようとしているアプリの登録の中で、特定の年代の方にプッシュ型のような形でご案内し、また特定検診やがん検診などのご案内もしながら、リンクの貼られているボタンを押すと、帯広市のホームページに飛んでいくこととなります。帯広市のホームページは、独立した安全なシステムの中で、検診の申し込みを受けられます。2つの取り組みを合わせて行うことで、受診率の向上に繋げていくという考え方があります。

● 委員

ポイントや特典の原資はどこから入っていくのか。予算として78万9千円となっておりますが、それは業者に払われるのか。

○事務局

予算の内訳としましては、主なものは、アプリ運営の委託料でございます。これが66万円。他に

は、ポスター作製の経費や、この事務に必要な消耗品等の経費となっております。特典につきましては、企業からの協賛です。今想定しておりますのは、飲食店のメニューの1品無料提供や、スポーツの観戦チケットなど、企業からの協賛で提供しようとしています。

● 委員

期待される効果としては、受診率の向上ということなのですか。

この委員会の中で、これまで、大腸がん検診を無料にしたら、受診率の向上につながるのではないかと、様々提言をしてきているわけです。そういった提言が政策に反映されず、こうしたマイレージ事業の提案となっている。この事業を否定するわけではないですが、唐突な感じがします。特典についても、飲食店のメニューの1品無料提供などが、適切なのか疑問です。健康増進に関わるものにしてはいけないのでは。もう少し検討の必要があると思います。

○事務局

期待される効果としまして、資料3に主に3点記載しております。

1点目は、特に働き盛りの世代の方の運動習慣が少ない傾向がありますので、それを少しでも増やしてもらい、生活習慣病に罹る人の割合を減少させること。

2点目は、申請のしやすさによる、検診受診者の増加につなげること、

3点目は、こうした取組みに賛同・協賛してくださる企業のイメージ向上や、企業の中での健康の増進を狙っているものです。

○事務局

補足させていただきます。この事業自体が、健康づくりにつながるということについては、これまでも、この部会を通じて、様々な意見をいただいております。

がん検診であれば、国民健康保険の中で、見開きの冊子を開くと、すぐにごがん検診が目につくような案内になっているかなど、直接予算に反映されなくても、様々な工夫を凝らしながらやってきております。我々この健康づくりは、マイレージ一つで完結するものではありません。様々な角度からのアプローチ、また、対象を変え、いろいろなものを組み合わせながら実施していく中で、特に若い人の無関心層をどう取り込むかというところで、健康マイレージ事業を実施するものです。一つの視点として導入させていただくものであります。これによって、一つの入口としてのきっかけづくりを狙っております。これを、企業とのタイアップというような形で、WINWINになるように、そしてご協力いただいた企業が、従業員の方々が、まるごと健康づくりに取り組んでいただきたいと考えております。事業者の方でも独自に健康づくりに取り組んでいただくよう、組み合わせ、工夫を凝らしながら進めていきたいと考えております。景品の部分も、企業の理解や協力をいただきながら、これから具体的に協議・検討を進めてまいります。

● 委員

がん検診の受診率がなぜ上がらないか、その要因としては、一つは機会の問題。休日などにも受けられる体制を整備する必要があります。もう一つは、費用の問題。過去に無料クーポン発行していた時には、受診率が上がっていたという実績もあります。検診を受けやすくする工夫、そういうところに、もっと予算をつける必要があると思います。

● 委員

何年かごとに見直す予定でしょうか。検証や報告についてはどう考えているのですか。

○事務局

まずは、3年間の実施を想定しています。そこで一度評価を行い、その後は、これを継承するのか、別の形をとるのか整理する予定です。このような考え方で進めていきたいと考えております。

● 委員

他の自治体等で実績などはありますか。やるのは良いのですが、目標数値のようなものがあるのでしょうか。

○事務局

目標値といたしましては、令和4年度までに、4,500人の方に参加していただくことを想定しております。また、他の自治体でも実施しているところがありますので、こうした先進地等への視察も実施し、状況確認や研究を行いながら、このような企画としたものあります。

○事務局

先ほど申し上げたとおり、このアプリで完結するものではありません。このアプリの活用の仕方としては、まずは関心を持ってもらい、ポイント等も意識しながら、チャレンジしてもらって、日頃の運動習慣のきっかけづくりにしていただきたい。また、プッシュ型の情報提供を行いながら、様々な機会を捉え、次のアプローチに繋げていこうと考えているものです。こうしたツールをきっかけに、新たに参加してくれた人たちを、次へ習慣づけしていかなくてはならない。検診を受けることでこういうことが改善されますよとか職員が様々な機会を通して接触して、次に繋げていくというような入口にしたいと考えています。

● 委員

令和3年度に向けての要望ですが、休日歯科診療事業について 通常の日曜日はドクター1人で対応しており、年末年始とゴールデンウィークは2人体制です。通常の日曜日の混雑は、そうでもないですが、連休は患者数が多いので、場合によっては3人体制にしたいと考えています。歯科医師の報酬について、3年度に向けて協議させていただく予定があります。それから、2年度について、ゴールデンウィークではないですが、オリンピックの絡みで3連休になるところがあります。そこも混雑が予想されるので、2人体制にするような形で対応していきたい。3年度の予算に向けて協議させていただきたい。

また、コロナウイルス感染症の関係での、休日夜間急病センターの在り方についてですが、疑いの患者が受診した時に、どういう体制で対応するのでしょうか。また、罹患者が出た場合、本州等の病院では、休診しているようです。急病センターだと休診することも難しいと思われそうですが、いかがでしょうか。

● 部会長

休日夜間急病センターに、罹患の疑いがある患者が受診することを想定し、保健所と対応について確認を行っています。また、市中感染となった場合は、別の扱いとなりますが、休日夜間急病センターや、市内医療機関においても、保健所とも協議をしながら対策をとっているところです。

● 委員

資料1の説明中、帯広厚生病院運営補助費の部分で、新病院移転に伴う病床数の増加と表現していましたが、病床数は減少しているはずでは。

○事務局

一部訂正させていただきます。ご指摘のとおり、病床数の総数は減少しております。運営費補助の対象となりますのが、周産期医療、救命救急、小児救急医療、小児病床でありまして、この対象となる、小児病床の部分が増えておりますことと、周産期医療の部分では、MFICU、NICU、GCUの設備が増加しているものです。

● 部会長

あとは、いかがでしょうか。よろしいですか。

【質疑なし】

● 部会長

なければ、事務局からお願いします。

○事務局

次回の地域医療推進部会の日程につきましては、稲葉部会長と調整させていただき、皆様にご案内させていただきますので宜しくお願いいたします。なお、来年度は、部会の委員・専門委員とも改選の年となっております、改選後の部会の開催時期につきましては、令和2年8月頃を予定しております。以上です。

● 部会長

以上で予定されている議事は終了いたしました。

ご苦労様でした。